

ばってん

事務長会報第21号

平成19年3月31日

長崎県公立学校事務長会

長崎西高等学校内
〒852-8004 長崎市竹の久保12番9号
電話 095-861-5106



ホテルモントレ長崎
TEL 095-822-2251
長崎市筑後町4番10号

1,680円の投資のススメ



事務局長 中村憲昭 (長崎東中学校・長崎東高等学校)

年明け早々、漢字に関する話題が二つあった。一つは、1月30日に発売されたWindows Vistaの漢字、もう一つは、1月15日からの朝日字体(朝日新聞)の廃止である。例えば、同紙3月3日の土曜版『愛の旅人』では舞姫の作者名の表記が、従来の「鷗外」から「鷗外」が変わっている。

いまさら新しい字形を覚えられる歳でもなく、「何で?」と言いたいが、表外漢字が新聞や出版物に使われている率は2~3%にすぎないらしいし、表外漢字のすべてが変わるわけでもない。正字に戻るんだからよしとするか? などと思っている。

実は、昭和58年にも同様のことが起こっている。今回とは逆に、JIS漢字の約200字が康熙字典体から略字体・俗字体に変わり、ワープロ文書等での混乱が懸念された。ただ、学校ではパソコンの導入期であり、大きな影響はなかったように思う。

しかし、なぜ字体がコロコロと変わるのだろう。

◆当用漢字と漢字廃止論

敗戦後、日本語表記をローマ字などの表音文字にすべきとの議論があり、昭和21年の第一次米国教育使節団報告書はローマ字の採用を促している。そんな時代背景の中で生まれたのが、昭和21年の当用漢字表である。漢字の使用を制限し、将来的には漢字廃止を目指していたともいわれている。この結果、改ざん(改竄)などの「まぜ書き」や、略奪(掠奪)などの「書きかえ」が生じ今日に及んでいる。また、字体は簡略体が採用され、昭和24年に当用漢字字体表として示された。

◆当用漢字表外漢字と朝日字体、JIS漢字

しかし、当用漢字表にない漢字は使わないことが前提であるから、表外漢字の字体が示されることはなかった。そこで、当用漢字の簡略体に準じて作られたのが朝日字体である。昭和31年には一通りの整備が終わり、鷗は当用漢字の区(區)の例に従い鷗となった。

一方、コンピュータ等で用いる漢字は、コード番号に対

応した例示字形が示されることとなる。これが昭和53年に制定されたJIS漢字であり、鷗が採用されている。

◆常用漢字とJIS漢字

漢字制限の動きは、国語の貧困化を招くとの批判や漢字かなまじり文の定着もあり低調となり、昭和56年には、漢字使用を制限した当用漢字表から、目安としての常用漢字表に変わった。しかし、表外漢字の字体はやはり示されることはなかった。

常用漢字表の告示を受け、JIS漢字は冒頭に述べたとおり、昭和58年に簡略体への変更を行っている。

◆常用漢字表外漢字と印刷標準字体

ところで、一般の書籍類における表外漢字の字体は、伝統的な康熙字典体が多く使われており、文字媒体間の字体の相違が問題になってきた。

平成12年、国語審議会は1,022字の印刷標準字体を示した表外漢字字体表を答申した。この字体は、おおむね康熙字典体を基本としているが、簡易慣用字体があるものはその字体も示してもおり、鷗は印刷標準、鷗は簡易慣用として併記されている。

JIS漢字も、平成12年に第3、第4水準文字を追加し、平成16年には168字の字体変更と10字の追加を行った。これに対応したのが、Vistaの標準日本語フォントである。

◆公文作成のルールを後輩に

漢字使用に限らず、日本語の表記法にはルールが多いが、これを1冊にまとめたのが「公文書の書き表し方の基準-資料集」(文化庁)である。

中でも昭和27年の「公文作成の要領」は、今もって公文書作成の基準であり、文部省語例集は即座に適切な表記を示してくれる優れものだ。このルール集を読破すれば、国語教師何するものぞの強力アイテムとなることは、会員各位周知のとおりである。1冊1,680円で、国語政策の変更がない限り定年まで使えるお買い得品だ。若き後輩たちに、強く薦めていただくよう切望して筆を置きたい。

定年まで1月、その思いは……

佐世保西高等学校 野見山 優

こここのところ、仕事を楽しくなくて困っている。残すところ1ヶ月余り、「立つ鳥あとを濁さず」の気持ち先行し、あれもこれもと焦燥感ばかりが募る。よい子（という歳か）ぶらず、もっと自然に、ありのまま去ればと思うのだが……。昭和49年4月の採用から、長崎教育事務所での苦い経験などもあったが、公私とも、気ままに、遊び楽しませていただいた3年間だった。あせるほどに、最後に少し、真面目に仕事に取り組みなさいとのご託宣であろうか。

仕事で遊ぶなど、不謹慎な表現かも知れないが、私の仕事に対する姿勢には、遊び心を持ち、仕事を楽しくれば、これにこしたことはないとの気持ちが、常に働いていたように思える。中学を出て4年間、工具などを経験した私は、仕事で何が苦痛かと問われると、「勤務終了を気にしながら、単純労働を機械的にこなすこと」と即座に答える。これに肉体的負担が加われば最悪である。幸い、学校事務に就いてから、この意味でつらいと思ったことは一度もない。確かに、学校事務の大半は、雑務に追われ、変化に乏しい庶務的業務ではあるが、その中にある改善への創意・工夫の余地は少なくない。特に勤務の後半は、パソコンの普及もあって、事務改善とパソコンの活用、これで大いに遊び楽しませてもらった。

人の喜びにはいろいろあるだろうが、私は、自分の創造性を十分に発揮して、その結果得られる達成感・充実感にまざるものはないと考えている。芸術性もない、たかが仕事のことで大げさな、そんな声も聞こえてきそうだが、どうせ仕事をするのなら、受身の指示されたこと、マニュアルどおりのことだけに終始するのではなく、主体的にこれに取り組み、創意と工夫を重ね、伸び伸びと活発に自分の個性を発揮し、楽しめればいいなあと思う次第である。

生意気できれいな事かもしれないが、事務職員の誰もが、こうした気持ちで仕事を楽しみ、時間を生み、研鑽を積んで事務のプロとなり、どんどん翼をひろげ、事務職員の集団が学校を支える一大勢力たらんことを念じる。

独善的理論と行動は、私の持ち味である。これまでまわりの方々に多大の迷惑をおかけしたことを、この場をかりてお詫びする。平成19年2月これを記す。

～徒 然～

西彼農業高等学校 榎 稔

今、目の前の応接机に載せている水槽のメダカも水が温み、温かい陽気に誘われて、所狭しと楽しそうに泳ぎ回っています。

2月7日「ばってん」の執筆依頼の電話が舞い込んできましたが、自分の思いを紙上発表したいと願っている事務長さん達が大勢おられる中に、二度も原稿を書けることを、私は幸せ者だと思って感謝しております。ありがとうございます。

さて、私はこの3月定年退職いたしますが、「ばってん」の紙上を借りて、これまでのお礼を会員の皆様に申し述べさせていただきたいと思います。

私は昭和41年4月上五島高校を振り出しに、ろう学校・学校教育課・平山養護学校・大村工業高校・諫早高校・上対馬高校・西彼杵高校・久原養護学校・虹の原養護学校・西彼農業高校に赴任しました。思い出に残る出来事は、それぞれの赴任地の学校に数限りなくありますが、まず採用の地である上対馬高校での最初の2年間何にも仕事をさせてもらえなかったのが、とつても寂しく辛い思い出として残っています。自分としては4月中途の採用でしたから、着任後には一般企業のように実務研修が行われ、その後仕事の分担があるものと信じて待っていたんですが、そのような気配は全くなく、その上当然のことながら島には知り合いの1人もおらず、寮に戻っても何にもすることがなく、聞こえてくる潮騒にしばし時間の経つのをまかせ、夜空いっぱい広がる満天の星空に癒しの場所を見つけ、その日その日を送っていました。勿論そんな中ですから机の一番上の引き出しにはいつでも提出できるように退職願を入れていました。

そんな私が41年間も勤務することができたのは、ひとえに先輩や会員の皆さんの温かい心遣いや、励ましのお陰と心から深く感謝しております。会員すべての皆様の今後の健康と活躍を願いつつお礼といたします。長崎県事務長会万歳!!

「1年目の独り言」

長崎北高等学校 高 富 健 吉

事務長を命ぜられて1年が経った。思えば、30年も前の昔、新任の事務職員として仕えた2人の事務長しか知らない私にとっては不安の船出であった。もちろん、これまで多くの事務長の皆さんとおつきあいさせていただき、またいろいろな話もお聞きしたりしてきたのであるが、「通勤が楽になる」などと呑気に構えておられる状況ではなかったのである。

それでも、入学式、PTA総会、台風災害や校舎の突然の雨漏り、汚水ポンプの破損、そして卒業式など、一通りの経験をし、仕事をさせてもらってきた。全国大会出場資金の募金も経験したし、寒風の中、父母の会の人たちと街頭にも立った。近所の少しだけやかましい「おじさん」と数回だが話す機会を得ることができたのも収穫といえれば収穫のような気がする。

監査事務局監査も、また、突然降って湧いた行政監査も受ける機会に恵まれなかったが、私にとっては私費会計

を勉強するチャンスとなった。(晴れて監査の対象に選ばれた学校の皆さんには申し訳ない。)

こうして今、1年が一応終わろうとしている。

ただ、「1年経過した」ということは、私にとっては「残りあと1年」ということでもある。あと1年がどんな年になるのかわからないが、気にかかることもある。

行政監査の結果報告が行われるであろうし、大小様々な指摘が行われるに違いない。県庁のいわゆる「不適切な物品購入」問題の影響も気がかりだ。

あまたある批判や反省を迫る論議は、籍を置いたことのある者の一人として真摯にそして深刻に受け止めるものであるが、「……組織というものは問題が起こると必ず反対側に振れすぎた制度をつくる。……裏金も税金だが(物品購入のためたくさんの書類を作る)人件費も税金……民間では1円の予算削減のために、1円以上のコストをかけることはしない。……」(長崎新聞コラム「うず潮」、鉄川進氏)との意見もお見受けした。

氏の心配する方向に進んでいるように見えるのは私だけだろうか。そしてそれは私自身の反省が足りない故のものなのだろうか。

会 員 漫 筆

「私の大声ストレス解消法」

猶興館高等学校 西山 猛 士

私の今の趣味は、大学の入学式で初めて男声合唱を聞いたことから始まります。

無伴奏でのそのハーモニーに身震いがしました。そうして始めた18歳から、あつという間の58歳ですから、なんと約40年間合唱を続けていることになりました。年数だけは長くなりますが、歌は一向に上手くはなりません。大声を出すことでの「ストレス解消」としての役割が大きいのですから……。

さて、就職してから入団した合唱団では、今まで多くの出会いがありました。仲間は異種の仕事をしている人の集まりで、性格もまた様々です。そのような人達とのコミュニケーションが楽しく、「合唱が好きだ」という仲間意識が、かけがえのない私の宝となっています。

この私の所属する合唱団は、「西海メンネルコール」といいます。(かつては佐世保中央高校の井手さんや松浦東高校の江口さんとも一緒に歌っていた合唱団です。)その合唱団では、指導及び指揮者の樋渡憲三先生(東翔高校長で退職)との出会いがあり、先生の紹介で、考えてもいなかった市民オペラに出演するという体験もさせてもらいました。最初はモーツァルトの「フィガロの結婚」でした。村の青年役で出てみないかと誘いがあったのです。私のような素人が音楽大学を卒業した人達に混じってこの様な経験ができたのは光栄でした。その後「魔笛」では奴隷と神父役、何れも合唱としての出演でした。その後「蝶々婦人」では大村の富豪ヤマドリ役にキャストイングされ、少しですが独唱を経験させてもらいました。また、名場面を集めたオペラでは「カルメン」のダンカ

イロ役をいただきました。何れも貴重な体験でした。また、オペラはどうらんを塗ってお化粧をするのですが、顔が変わっていくのがおもしろく、癖になりそうでした。舞台作りから台詞を忘れた時の助手(蔭)・衣装係・演出者・監督・オーケストラ・指揮者など多くの人の協力で造られていく舞台裏を知り、オペラを身近に楽しむことが出来るようになりました。

また、五島での単身赴任時代には、福江市の「フロイデ」という混声の合唱団に入団し、地元の皆さんとのお付き合いができて、楽しい思い出を作ることが出来ました。

このように、私にとって合唱はストレス解消から人との付き合いまで、人生に大きな位置にあると言えます。

カラオケは苦手な私ですが、合唱は歌えるのです。何故かと言うと練習で丁寧に一小節ごとに教えてもらうからです。また、少々間違っても歌わなくても仲間が歌っているので心配がないからです。

そこで、皆さんにお勧めしたいのが天下のベートーベンの第九番「歓喜の歌」をオーケストラをバックに合唱で歌うことです。男声で歌う人が少ないので引っ張りだこなことや、なんと言ってもオーケストラで歌うと癖になるくらい気持ちが良いこと、請け合いですから……。カラオケ上手な貴方へドイツ語の発音からパートごとの音取りまで練習用CD等が市販されていますので、こっそり練習して参加されたら如何でしょうか。



ウチ

のここが
すばらしい

「何もないけど…」

五島南高等学校 中村 弘 幸

写真を見ていただければおわかりかと思いますが、あらためて説明すると、本校のまわりは、田んぼと海(川)と空と山のみ!

要するに「いなか」です。それもおそろしくい・な・か。春から初夏はカニの大群、秋口は大風が吹き荒れ、またたくまに冬がきて春になる。

何も学校を田んぼの中に建てなくてもと思うのですが、色々な事情があって、今に至っているわけで、今更先人に文句を言ったら罰が当たりますが。

そんな我が校は都会の喧噪もなく、コンビニもない、何もないのどかな田園の中で、日々教育活動を黙々と推進しており、地域と共に活気に満ちた学校づくりに邁進しています。

地域との連携ということでは、学校行事の中に「稲作体験」を取り入れ、6月の田植えに始まり、8月の稲刈り(早期米で餅米)、10月文化祭での餅つき大会と、田植えをどうしてPTA、地域住民、学校がひとつになって、行

事を盛り上げています。

今では田舎の子でもなかなか体験しない田植えを、地域の方、PTAと一緒に生徒へ田植えの方法を指導し、一緒になって餅を頬張る姿は、究極の地域との連携です。

これといった建物自慢、設備自慢など皆無ですが、学校近くの小高い城山から雄大に広がる海空山を眺望すると、この地域がその昔、中国大陸との文化交流に大きな役割を果たした遣唐使船の寄港地である白石湾にあることがロマンを誘い、誇りでもあります。

温暖化がジワジワと進行し、夏の暑さは長く、異常気象も数多く発生していますが、学校周辺の何もない自然豊かな風土が心なしか人に優しく、クーラー使用も控えめにしてくれるのは、何よりこの風土の恩恵です。

いなかのなにもないけど味のある風土を大切に守り、地域と共生しながらその一員としての役割を担える生徒が、数多く巣立ってくれることを願うばかりです。



随想



野球留学

清峰高等学校長 松瀬太郎

概況

「地元の生徒で作る田舎の小さな公立高校が、県を越えて生徒を集めた私立の強豪校に2つも勝てたことはとても痛快でした。」これは、甲子園初出場を果たした平成17年8月、三回戦で大阪桐蔭に惜敗した日に、マスコミに感想を求められて述べた言葉です。

この言葉が出たのは、大会前にいろいろな動きがあったからです。高野連は、野球留学で、高校野球の本来の姿「それぞれの地元で甲子園を目指してひたすら努力する普通の高校野球児を育てる」が、失われていくという問題意識を持っていました。その大会の開会式では当時の中山文部科学大臣も「高校野球の原点に立ち返れば、それぞれの郷土で生まれ育った郷土の代表として出場することが、地元の皆さんが応援することが出来る・・・」と挨拶をしています。

その後、その年の10月、NHKが『クローズアップ現代』でこのことを取り上げました。その内容はこうです。「第87回大会の出場校中、県外生が登録されている学校は30校、その中で部員の半数以上を県外生が占めている学校は8校。また、甲子園出場選手は882人、そのうち県外生は5人に1人の割合。特に青森県の青森山田高校は、レギュラー9人中7人が、鳥根県の江の川高校は登録選手18人中16名が県外生」。そして、「高野連は、この実態を改善するために、何らかの対策を取る」というものでした。

なぜ野球留学

さて、野球留学はなぜ起こるのか、理由は幾つかあると思います。一つは、将来は野球で身を立てたいと希望する生徒がいるということです。甲子園大会を始めとする大きな大会での活躍の場が多いほど、技量をアピール出来る機会が増えるので、その目的の達成に有利な環境にある学校を目指すのです。それは、都市部の強豪校であったり、地方の甲子園常連校であったりです。

また、私立学校の経営戦略もあると思います。私立学校の中には、昔から高校野球の注目度に着目し、それを

生徒募集の手段として甲子園出場を目標にする学校がありました。少子化で生徒数が減少している現在はなおのことこの動きはあるようです。

野球留学の弊害

この野球留学、登録メンバーに県外生が多数いるということで、各県1校での地域の代表の性格がなくなってきたことを問題とされています。しかし、もっと問題なのは、私立学校の経営戦略として、実績のある生徒を授業料免除等、経済的な面を使って勧誘していることです。高野連は、野球部員であることを理由とした授業料等の免除は禁止していますが、先の番組に依れば実際には行われているようです。(ただ、学校の制度としての全生徒を対象とした特待生制度等を受けることは禁止はしていません。このところが抜け穴となっているようです。)

野球留学は当然の流れ

ところで、野球留学の弊害とされていることを挙げましたが、地元の代表でなくなる、ということは、仕方のないことかも知れません。昔も今も立身出世を夢見て、難関大学を目指して刻苦勉強し、都会の有名受験校に進学している実態があります。そのことと県を超えて甲子園出場が期待出来る学校に進学することは、何ら変わらないのですから。将来の進路を考えて、目標を達成出来る確率が高いところに進学することは当然のことだと思います。

本校の悩み

さて、本校は、三季連続で甲子園に出場する中で、準優勝したり、PL学園などの強豪校を破ったりしたことで、全国から野球留学の問い合わせが続きました。公立であるが故に、授業料免除などの特典もないのです。しかし、寮や下宿はない、また、それらを作る計画もない、との回答で、今ではその問い合わせは少なくなりました。監督の方針は純粋に地元の生徒でチームを作るとしていますのでほっとはしています。

ただ、公立である限り、県外の生徒が正式な手続きを経て受験し、合格して希望すれば入部を断ることはできません。地元の生徒だけのチームではなくなります。世の流れに抗して、高野連が目指す高校野球を貫こうとする本校の野球部ですが、強くなったがために、本校が望まない野球留學生が現行の入学システムでは出てくる可能性はあり得ます。

なお、現在まで高野連から野球留学についての規制は出ていません。

編集後記



例年になく地球温暖化の影響があるのか積雪がない所もあったと聞く。事務室の窓から見える山々の景色も風にも暖かい春を感じるこの頃です。

「ばってん21号」をお届けします。今号の随想は、広報部高澤事務長の勤務する清峰高等学校の松瀬太郎校長先生に御執筆をいただきました。執筆のお願いをしたところ、事務長会のためにと快諾をされ、甲子園出場についての貴重な寄稿を頂戴いたしました。ありがとうございます。

いました。広報部では、学校行事等で何かと忙しい日々を過ごされている2月初旬に原稿依頼をそれぞれの顔がきく(?)方々に執筆のお願いをいたしました。ご多用の中、寄稿していただきありがとうございました。

集約した原稿を整理して印刷準備をしているうちに、3月20日の異動内示から毎日が慌しく過ぎ、慌てて編集後記に執りかかる始末となってしまう、なかなか筆がすすまず悪戦苦闘の状態。3月末で退職される事務長を代表して2名から寄稿を頂戴しました。健康に留意され新天地での活躍をお祈りいたします。今回で編集後記の原稿書きから解放されることを思うと安堵感があります。これまで執筆に応じていただいた多数の会員の皆様には深く感謝申し上げます。ありがとうございました。